

祝 おめでとうございます!

学生飛躍基金 受賞

平成28年度成績最優秀者奨学金、優秀部活動等奨励金及び優秀地域貢献活動奨励金の採択者が教育研究審議会及び学生飛躍委員会での審議をふまえ、右記の通り決定しました。

なお、学生飛躍基金は兵庫県立大学10周年・創基85周年の記念事業の一つであり、皆様からの御寄付の賜物です。

一昨年度から創基100周年まで、15年間継続する予定です。

受賞者

成績最優秀者

環境人間学部 2年 金 口 梓
3年 井 上 誓 子
4年 岡 野 春 香

優秀部活動等奨励者

3年 手 井 紗也加

優秀地域貢献活動奨励者

銀の馬車道ヘリテージネットワーク研究機構
宮 田 寛 子

蘇州旅行記

環境人間学部 3年 大内 萌 香



筆者は前列左から2番目

日本は失敗が許されない国である。だから皆ミスをしないように無難な生き方をしている。中国人はそうではない。自分の感情を表現することを美德としている。私はその生き方を羨ましく思う。

「中国」と聞いて、良いイメージを浮かべる人は少ないだろう。特に、大気汚染の印象が強いのではないだろうか。しかし、私は蘇州での生活のうちマスクをした日は1日もなかった。冬場は、空気が汚くなることがあるそうだが、夏場はそうでもない。メディアから得られる中国に関する情報のほとんどはマイナスのイメージを含んでいる。その情報がすべて正しいと信じる人は中国のことを嫌う。実際に自分の目で見なければ理解できないことがたくさんある。

また、蘇州では素敵な出会いがたくさんあった。人とのつながりの中で学ぶ言葉は、日本で触れるそれよりも何倍も何十倍も新鮮であった。今回の研修目的として、中国を自分の目で直接見ることを挙げていた。その目的は果たすことができたのではないだろうか。



上海の夜景

イギリス旅行記

環境人間学部 3年 大橋 拓 哉



英語の語学授業をメインに、ネイティブスピーカーの先生と英語の「読む・書く・聞く・話す」の能力を週5日間の時間割で総合的に鍛えるため8月12日～9月4日の3週間イギリスのブライトンにあるサセックス大学に行ってきました。

授業では単語や文法、イギリス文化など先生との英会話やゲーム形式でアウトプットしながら自分の英語の技能を磨きました。この語学授業は知らない言葉が出てきた際に辞書やスマホを使わず近くの生徒同士で話し合うかネイティブの先生に英語で質問するという方針でした。実際に先生に質問しても英語のみで説明が返ってくるので当初慣れるのに時間がかかりましたが、日本語の辞書で意味だけを理解してしまうよりも、せつかくの環境で「英語を英語で理解する」ことは鮮明にその言葉と、そのニュアンスも理解できる良いチャンスであり、コミュニケーションをする上で大切なことであると感じました。また、ネイティブの先生も授業で正解した時は優しい表情で目一杯褒めて下さり、とても気持ち良く語学研修を楽しむことが出来ました。

最後に、これから留学しようと考えている人たちには、外国の文化に入れば恥ずかしながら失敗を恐れず、ぜひその文化に馴染むよう積極的に楽しんで欲しいと思います。きっと大事な発見に出会えるでしょう。

夏期 研修旅行



ON AIR

ラジオ番組作りに携わって

環境人間学部 2年 岡崎 駿也

私は兵庫県立大学新在家キャンパスで活動している広報同好会に入っています。ここでは、毎月「県大アワー」というラジオ番組を制作しており、姫路のローカルFM、FM GENKIに枠を頂き、毎月第一土曜日の午後10時から30分間放送しています。

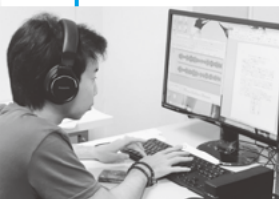
企画に始まり、取材や原稿作り、収録、編集までの全過程を学生が中心となって制作しています。県立大のサークルや学生団体の活動状況をはじめ、環境人間学部の授業内容、先生方の専門研究などについても時にゲストを招いて紹介したり、工大祭や、環境人間学部開催の「環境フォーラム」などの宣伝や報告も行っています。

番組作りを通して、社会人になった際に求められる自分の意見をわかりやすく伝える発信力や相手の意見を丁寧に聞く傾聴力、他にも計画力や実行力を身につけたいと思っています。部員は現在9名在籍していて、ラジオが好きで、喋ることが好きな人、音声の編集をしたい人など個性の強い部員が揃っています。今年度より動画制作も始まり、姫路市の女子サッカーチーム「ASハリマリアルビオン」と共同で宣伝動画の制作も行いました。現在、兵庫県青少年本部の事業で、地域の活性化を目指す「ふるさとづくり青年隊」の活動を紹介する動画を制作しています。

また「県大アワー」では毎年夏休みに県立大が主催する中国研修訪問の様子を、2ヶ月にわたり放送しました。この研修訪問には私を含めて県大生7人が参加し、蘇州大学で3週間、中国語や中国文化について学びました。中国に着くや、まず交通の激しさに驚きました。車の量が多く、至る所でクラクションが鳴り、私達が乗ったバスは激しく追い越しを繰り返しながら、蘇州大学に着きました。楽しみだった料理はどれも美味しく、麻婆豆腐や餃子、小籠包などを本場の味だけで食べました。食べた料理の中には、カエルの肉が入った鍋料理やハトの肉料理などもあり、日本では滅多に味わえない体験をしました。

大学では、県大生だけで中国語の文法などを学んだ後、クラスに分かれ、国籍、年齢も違う人達と中国語を基礎から学びました。大きな声で発声練習をし、先生の説明を必死にメモする海外の学生達には熱意を感じ、私の大学での学習態度を考えさせられました。英語で進められた授業にも感化され、帰国後は英語と中国語の習得により一層力を入れています。

今後とも大学での勉強や広報同好会での活動を頑張っていきたいと思えます。



編集作業